

一周年



平成26年6月ケアハウスかみれんは
一周年を迎えます。

かみれん新聞

ごあいさつ



施設長
宇佐見 保夫

さわやかな初夏の季節となりました。ケアハウスかみれんは、入居者の個性・自主性を尊重し、自己判断・自己責任で行動して頂いていきます。職員は「思いやり」を相談サービス

の基本と位置付け、入居者の皆様の尊厳を守り、安全で自立した生活をその人らしくいつまでも三鷹で暮らし続けていられるように努めています。ケアハウスかみれんは平成25年6月17日に事業を開始した1年生の施設です。1年の歴史は未来に続く通過点、これから10年、20年に向けて新たなページを刻んでいきます。入居者の皆様と共に歩み、地域の皆様と連携を深め、暖かい施設づくりを目指します。

発行年月日
2014年6月17日

発行人
塚本 和徳



編集者より
ひとこと

記念の第一号です。
どうぞお楽しみください。

入居者からのヒトコト

萬代 裕子



私はハナカイドウのケアマネさんのお勧めが入りました。ウズに入りまして、いざと言う時は病院も近く、お隣は井口院の不動明王が立派に見守って下さり、皆様の愛を受けて静かです。私は今年91歳を迎えました。岡山県の女学校時代の学友とも元気で頑張ろうねと電話で励まし送っています。

松永 房子



かみれんにお世話になりありがとうございます。もうすぐ1年になります。月日が経つのがすごく早く感じます。皆様と仲良くお話ししたりお茶会も楽しく過ごさせて頂きます。ありがとうございます。



かみれん イベントアルバム



1月

バスハイク!

入居者から 『遠くに行きたい』『最近のスポットが良い』『買い物もしたい』などのご希望から東京スカイツリー・浅草・100円ショップ・新歌舞伎座とバスで出かけしました。入居者職員と雨女・雨男が多い中で最後まで雨も降らず 皆さんと楽しむことができました。

1月

初詣



三鷹八幡神社まで 希望者と初詣に出かけました。皆それぞれ願いを込めて お参りしてました。
さて 願い事は叶うでしょうか？
皆さんの願いが 叶いますように。

かみれん作品

1 巾着



2 クッション



3 イノシシ



かみれんには入居者が作成した作品が沢山あります。

8月

花火大会見物

調布花火大会を屋上から見物。急に決めたので お酒が無くて残念…今年はちゃんと用意しますからね。





第二回 バスハイク

日時：2014年5月29日（木）

場所：横須賀・城ヶ島
横浜中華街

入居者の皆さんと
横須賀軍港巡り
城ヶ島でマグロ
中華街散策に
行ってきました。



横須賀



これから乗船です。



迫力の戦艦。

中華街



中華街で一枚。



城ヶ島（三崎）でマグロ丼。

職員よりご挨拶



(株)三鷹ナース

ヘルパーセンター

代表取締役 山田 義剛

この度、弊社で初めての入居施設となりますケアハウス『かみれん』が一周年を迎えます。入居者の皆様、そしてスタッフ一同、地域の方々のご協力のもと、安心安全な施設運営を行う事が出来ました。これからも地域に必要とされたいなれるよう努めてまいります。皆様のお力添えをお願い申し上げます。

早いもので ケアハウスかみれんは1年が経ち 2度目の夏を迎えようとしています。何といたっても入居されている皆さんはお元気で見守る立場で有りながら 逆にパワーを貰っています。たった1年で施設は皆が作った作品で賑わっています。季節ごとの飾り付けや折り紙、また最近だと桜を見に散歩、大目玉として日帰りバスハイク等を行ったりと 和気あいあい楽しく過ごしています。皆さんにはかみれんに来て良かったと思えるよう まだまだ未熟ですが 日々 頑張っていきたいと思えます。

職員 齋藤 歩美



相談員
塚本 和徳



人間40歳も過ぎると 10年が束になって過ぎていくと聞いたことが有ります。 齢40も疾うに過ぎた私ですが、かみれんの1年はそれ以上の感覚より短く 福祉の仕事 をしてきた中でも 特に短い1年だったような気がします。

それは「大変だった」のではなく『楽しかった』という言葉が相応しく入居の皆さんと共に作った楽しさだったと思います。最初にかみれんの辞令を頂いた時に 障害者の直接援助を生業に生きていくであろう想像図を 高齢者施設の職員に塗り替える事になろうとは 努々思っまず 取りかかったのは「どんな施設なら 皆入居したいか」を考える事でした。それは震災からちょうど1年も経 たない頃だったでしょうか、ボランティアで現地に行って 荒野のような海辺の土地と その中

で大したことのできない自分の無力・非力を嫌というほど思い知らされ 気持も持ち上がらない中 新しいものを作る作業は 正直きつかったの一言でした。そして開所して1年…楽しかったと言える今が、どれだけ有りがたいか 感謝してもしきれません。施設での生活は なかなか外の人には見えるものではありません。今回の新聞は 施設の活動を紹介するため また かかわって頂いたご家族・地域の方々への感謝をこめて作りました。この新聞で ほんの少しでもその想いが伝われば うれしく思います。これからも どうぞ よろしくお願い致します。